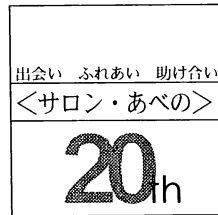




サロン よいところ、 こんなところ

久しぶりに
『お・か・し』を囲んで

〈サロン・あべの〉3月の出会い



小雨降る
あいにくの
空模様とな
った平成18
年3月18日
(土)午後
1時〜4

時、育徳コミュニティーセンタ
ー2階研修室で、岡知史(おかと
もふみ||写真次頁)さんと「20周年
記念―久しぶりに『お・か・し』
を囲んで―」話がはずみました。

岡さんは、いま、上智大学総合

人間科学部教授(社会福祉学科)
で、お忙しい日々を過ごされて
います。が、そのむかし昭和60年
(1985年)の春は、大阪市内
で初めて開設された「あべのポ
ランテア・ビューロー」の初代
ボランティアコーディネーター
でした。「あべのボランティア・
ビューロー」は、育徳コミュニテ
ィーセンター2階の研修室向か
いの部屋で開所しました。そこ

にはいつも、ボランティア志望
の人たちと障害を持った人たち
が集まっているいろいろな話をして
いました。その人たちに岡さん
は、何かをしたらと助言され、そ
こからサロンのように話合える
場を作ろうという話が芽生えま
した。翌年の3月29日、〈サロン・
あべの〉が発会してサロン活動
が始まりました。やがて、創刊され
た本紙にエッセイを書いていた
べくようになり、毎月途切れる
ことなく今も続けてもらって
います。

7年ぶり5回目のサロン

サロンで話をした最初は19年
前(1987年)の4月、『お・
か・し』を囲んで」ということで、
サロンでの出会いの話やサロン
活動のあり方を話した。2回目
(1992年4月)は、「久しぶり
に岡さんと」という出会いで、エ
ッセイ集「知らされない愛につ
いて」に書いたことについて話



をした。3回目(1996年4月)は、「サロン・あべの」10周年記念：サロン10年目の活動に思うこと」と題して、大学の授業のようにプロジェクトを使い、人との出会いについて話をした。この時、サロンの20周年には、どんなサロン活動になっているかという質問に、インターネットを利用して話しているであろうという話があったが、その通りで、「サロン・あべの」紙のホームページが開設されている。4回目(1999年4月)には、「仲間による癒し」というテーマで話をした。

サロンでは、いろいろと話をしてきたが、本当に難しい。

大きな講演会でエッセイの話

中から、「砂の山の穏やかな傾き」を朗読された。

砂の山の穏やかな傾き

をしてほしいと言われて、2時間もたなかった記憶がある。今日、これはこれまでサロン紙に書いてきたエッセイの中から24編を選んで冊子を作ってきた。この中からいくつかを選んで話したい。

岡さんは自家製の冊子の

手のひらに砂をにぎり、こぶし一つ分の高さから静かに落とせば、そこに小さな砂の山が生まれる。それは、ほんとうに小さな山だが、それでも富士山と同じ形をしていて、なだらかな裾野(すその)は、手のひらほどの大きさに、こじんまりと広がる。このような小さな山でさえ大きな山と同じおだやかな角度をもっている。信じられなければ、砂を手に取り、何度でも試してみよう。手のひらいっぱい砂

を静かに落とせば、いつもと同じく変わらない、穏やかでつましい角度が、あなたの目の前に現れる。

これは砂がもつ角度。砂の一粒ひとつぶには、どこにも現れてはいないけれど、手にとつて静かに落とせば、かならず姿をみせる穏やかで自然な傾き。新たに落ちてくる砂の粒を、受け流すように自分にとりこんでいく、この巧みな角度を砂の山は知っている。

あなたと向かいあうとき、あなたの言葉と、あなたの息づかいが、そのまま私の中に降りそそぐように、私は、この砂の山のおだやかな傾きを保ちたい。たとえ、あなたの言葉が激しく、叫ぶような怒りと悲しみに満ちていても、この砂の山の穏やかな傾きを心に抱(いだ)くかぎり、私は私らしさを失わないままに、あなたを拒むことなく受け入れることができるだろう。

雪が降り積んでも、しなやかに雪を大地に返す樹の枝は、そ

の角度を知っている。座っている石仏の肩から腕、そして手のひらにつながる流れに、このおだやかな傾きは現れる。教会のステンドグラスに描かれたイエスの腕にも、招くような砂の山のゆるやかな流れが見える。

語り合うために丸くなって座るとき、ひとりひとりのさまざまな心の形は、かげろうのように浮かぶ。高く厚い壁のような形、いまにも崩れそうに積み重なっている積木の形。星形のよう鋭い剣を周囲に出す形、誰かを引きよせる鉤(かぎ)をぐるぐると回している形。そして、丸い太陽のように燃えている形があれば、捨てられた針金のように迷い乱れた形も見える。

それぞれの心のかたちは、それぞれ性格や生い立ちによるものかもしれないが、向かいあううちに自ずから心の形は似てくる。心は、たがいに響きあい、形は映りあう。

大勢のなかに砂の山のおだやかな角度をもつ人たちが、幾人

か座ることによって、あつまり全体の空気が変わる。高い壁のような硬さも、瓦礫(がれき)のように壊れそうな危うさも、剣(つるぎ)のような鋭さも、太陽のような熱さも、すべて砂の山の傾きで受けとめられ安らぎを得て、結び目を解き、小さな砂の粒に戻ってゆく。気がつけばそれぞれの心が、おだやかな砂の山の形に近付いている。

誰かを受け入れるということ、自分を見失うことではない。相手の怒りや悲しみに、私自身も巻き込まれ流されてしまうことではない。かといって拒むことでも、隔たりをもつことでもないという微妙な姿を、砂は、その角度を通して教えている。その形を忘れかけたら、子ども

魅惑のシャンソン 2006

奥田真祐美&さとう宗幸
ジョイントコンサート

—大阪から仙台、
浪漫を運ぶシャンソンの流れ—

プログラム=青葉城恋唄
クスノキのうた
パリの空の下
ミラボー橋
カレンダー
他

日 時=5月21日(日)
開場14時30分
開演15時00分
会場=森ノ宮ピロティホール
入 場 料=前売¥4800
当日¥5500
(全席指定)

演 奏=西川真グループ
榊原光裕 (ピアノ)
共 演=谷崎美智子
松岡智子

.....
チケット取扱・ご予約・お問合せ=
奥田真祐美音楽事務所
TEL・FAX 06-6692-8774
Eメール mayumi@camphrier.com
.....

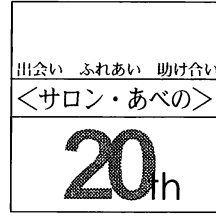
このエッセイの背後にあるもの、人の心の奥底にあるものを、樹木や水、一握の砂に例えて、話をしたり、ご自身がボランテイア活動で、アルコール依存症のグループワークに参加して、そ

の人たちが心の葛藤を繰り返しながら立ち直ろうとする過程の話などを交えての説明を聞くにつけ、岡さんのエッセイの源、奥深さを改めて思い知りました。ちなみにこの「砂の山」は2003年11月(サロン・あべの)101号「顔は心の蓋だから(1994年11月(サロン・あべの)101号掲載)」など数点についてもお話をいただきました。

岡さんのお話は尽きることがない泉のように、エッセイを軸に、いろいろな感じ方、考え方を示唆していただきました。同時に、エッセイを書くのに、話の研究、筋の研究をしたりけっこう時間をかけている、といった苦勞話も。心和む(サロン・あべの)20周年記念の出会いとなりました。

(見出し)中西利香・筆
(参加者27名 富田慶子)

20年前の点が線に、今長く・面に



久方ぶりに（サロン・あべの）に参加しました。懐かしい方々、そして大半が初対面の方々との出会いです。が、初対面の緊張感・違和感が

て感慨無量です。

5周年記念誌の中で富田慶子さんは「…昭和61年3月29日（サロン・あべの）は、小さな点として産声を上げました。…このサロンでの出合いを1本の線にして、長く多く延ばしていきたい。…」と述べておられます。「継続は力なり」そして今、先駆的な（サロン・あべの）の活動理念に沿った「サロン」が市内の所々に誕生し、線が放射状に展開を続けていて、伊丹までもネットの拡がりを見せている素晴らしい現象をうれしく思っています。

私たちは、社会の中で常に「違い」を意識しながら、させられながら生活しています。が、ここ（サロン・あべの）の「みんな違っていて当たり前」の雰囲気に参加者全員が開放されるのでしょうか。

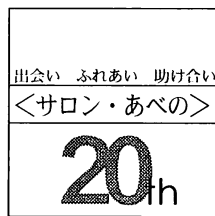
活動を進めている者にとって、もどかしいほど気掛かりなことは「共に生きる社会」に向けての市民意識の成熟が遅れていることですが、これら各所の「サロン」が核になり、その気運が高まっていくことに期待が持てます。

（サロン・あべの）の理念が、20年に及ぶ活動の中で熟成され、開放された楽しい雰囲気を醸し出しているのでしょうか。（サロン・あべの）の発会式にも参加し、陰ながら声援を送っていた者としてはこの上もなく嬉しく、運営委員の皆様のご努力を思い合わせ

90歳の網谷さん、堺の吉岡さん、そして参加された皆さんお一人お一人から、勇気とエネルギーを頂きました。「岡ワールド」に心酔する至福の一時も持てました。機会を設定してくださいました（サロン・あべの）のみならず、ありがとうございました。時々エネルギー

ギー補給に伺いたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。
（田中美智子）

20周年 記念講演会に参加して



（サロン・あべの）が20年の記念すべき時に、参加できた事は、何とも言いがたい出合いであったような気がします。約2年前に（サロン・

あべの）の皆さん方と、お会いする機会があつて以来、毎号を通じて障害者に関わる時事や活動内容などをメールで交わっていました。

記念講演は（サロン・あべの）の設立に加わり、現在は大学の教授とは知らず、エッセイを書かれている、言うなれば作詞家のような印象を持ちました。話が進むにつれ題名の無い話につられるように、玉手箱の中から次から次へと話題が溢れ出たひと時に、眠っていた前頭葉や感性が刺激され、夢や

希望がストーリーと共に浮かんできた事の不思議を嘯みしめながら聞き入っていました。

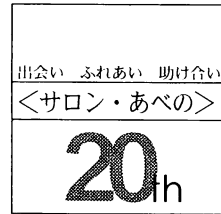
不思議な表現をする作者だなあ〜と思つていた事が岡知史さんと対面した事で、エッセイの内容が1節々判つた思いでした。

交流会では、設立当時のご苦労や「まさかここまで活動が続くとは」の心の感情が強く伝わってきた時は、岡先生と関係者(石田さん・富田さん)にだけ通じる物がありました。また、現在まで支えてこられた多くのボランティアの方、その都度楽しみとして参加された方々のサロンに寄せる思いは、20年の歴史があつたなればこそと、心が打たれました。

もう1つの思い出は、原田さん親子にお目にかかれた事です。兄妹の2人は「大人が会いたい子供」として脳裏に浮かんでいただけに、快活なお2人でした。10年後、20年後の日本の福祉社会が引き継がれる時、(サロン・あべの)のような心の止まり木になる所が数限りなく出来ていけば、多くの方が自分の人生をまっとうできるのにと、思いをいっぱい詰め込んで帰路につきました。

(吉岡 克彦)

「岡World」にどっぷり



ほんと、驚きました。

岡さんの後を引き継ぎ、コーディネーターを引き受けたときは、1年間2人3脚で岡さんの教えを請いながら勉強させてもらうつもりだったのに、急遽バトンタッチすることになりました。私の不安もさることながら、ビューローに集っていたボランティアの皆さん、サロンの方々の心細さはいかばかりだったか・・と思えます。

そんな私を氣遣つて、その後も事あるごとに岡さんはビューローを訪ねてくださり、私の相談にのってくれました。岡さんに対して話をしていると、観察眼の鋭さ、特に人の能力(?)を見極める的確さにびっくりしました(ちよっ

と怖いぐらいに・・)。あの頃のサロンのメンバーが礎を築き、サロンの活動が20年続いていることを考えても、分かんと思えます。

また、漠然と感じている事柄に対しても、うまく表現をしたり分析をしてくれ「そうそう、そんな感じ」とか「そういうことだったのか」と気付かせてくれたりしたものでした。話を聞いてくれているときは、そんなに真剣な表情ではなく、物思いにふけっているような印象さえ受けることもあつたのですが・・。そんな雰囲気もまた、今日の岡さんの話ぶりの中に垣間見られて懐かしく感じました。

サロン紙の中の「岡World」の源流はあのころから脈々と流れていて、今もあまり変わりにくく続いているような気がします。今日は、そんな岡さんのエッセイが生まれたときの背景なども聞けて、参加者みなで「岡World」にどっぷりと浸らせていただきました。

また、今回のついでには、懐かしいお顔にもお会いすることが出来ましたし、子どもたちにサロン紙を通じてあなたたい文章を寄せていただいた方とお会いする機会をいただき、うれしい「出会い」となりました。本当にありがとうございました。

(原田 博子)

思いの強さ



もう二十数年前の話、場所は忘れてしまっ
たが、あべのポランティア・ビューローの設
立にむけての会議が開かれた。会議が無事に
終わり、当時、大阪ポランティア協会の事務
局長であった岡本栄一先生と会議室を出たと

きのことだ。

岡本先生は「さあて、問題は、こうして部
屋を出たあと何人の人が、ビューローのこと
を考えてくれているかだね。そういう人がど
れだけいるかで、このビューローの設立がう
まくいくか、いかにかが決まるのだよ」と
いう意味のことをおっしゃった。会議の中身
のほうが大事だと思っていた私にはとても意
外な言葉だったので、いまでもよく覚えてい
る。

先月サロンで七年ぶりにお話をさせていた
だいたが、その帰り道、その岡本先生の言葉
を思い出した。というのは、次のようなこと
があったからだ。

「サロン・あべのは、どうしてこんなに二
十年もうまく続いているのでしょうか」とい
う質問が一人の参加者から私に出された。
「さあ、それは中心になつておられるかたのお人
柄でしょうかね」と答えておいたが、よく考
えてみると、人柄が良い人が中心になつてい

てもうまくいっていない団体なんて、いくら
でもある。ちよつと不十分な答えだったと思
うのである。

その質問の前後に石田さんが「岡さんが東
京に行くということ聞いたとき、泣きそう
でしたわ。もう、サロンをどうしようかと
思つて」という発言をされた。初めは、失礼
ながら、ずいぶん大げさにおっしゃっている
なと思つた。というのも、当時、石田さんが
そんなふうに感じていたとは夢にも思わな
かつたからである。あるいは新しい世界に飛
び込もうとしていた私には、周囲の人たちの
気持ちは何も見えていなかったのかもしれない。
何度か同じことを石田さんが言われたの
で、どうやら本気でそう思われていたらしい
と考え直した。そして、このことを、また帰
り道に思い出し、先の岡本先生の話とつな
がったのである。

「サロン・あべの」が二十年も続いている
のは、中心になつておられる人たちの強く熱い思
いがあつたからだというのが、今の私の結論
だ。サロンの様子を毎月、毎月知らせしてくれ
る富田さんからの私への手書きの手紙にして

も、もう二十年ちかく続いているが、これは「子を思う母のような気持ち」でサロンのことを考えていらつしやるとしか思えない。そうでなければ、二十年間、ほとんど返事を書いたこともない私に、こんなにマメに手紙を書いて下さるはずがないのである。

こんなにも愛されているサロンは実に幸せである。ボランティアグループなんて星の数ほどあるが、ここまで愛されているグループは本当に稀な存在であるにちがいない。

ただ、サロンは一方的に愛されてきたわけではないと思う。サロンもまた、その中心を担っている人々を愛してきた。言い換えれば、私のようにサロンに集う多くの人々は、サロンを通じて富田さんや石田さんたちを敬愛し、大切な存在だと思いつけたのである。

一九年前、私がサロン紙に寄せた最初の文には「グループは生き物」というタイトルがついていた。人間であれば成人になったサロンは、まさに「生き物」として人と人をつないでいるのである。(知)

「邦子、…ん歳の手習い」(定藤邦子)はお休みです。

4月のやわらかい陽ざしを浴びながら電動車いすで散策をしていると、カタカタ……とランドセルの音を立てながら3人の新入生が私を追い越して行った。

何気なく新入生が背負っているランドセルを見ていると、赤、緑、黄とカラフルな色で、型も昔のことを思うとおしゃれになっているような気がした。それに最近は子供が犯罪にまきこまれる事件が多いので、ランドセルにGPS(全地球測位システム)機能が付けてあるそうだ。これを付けておくと現在地がパソコン画面などで追跡でき、ガードマンがかけつけてくれる。便利だと思える反面、物騒な世相を反映しているようで感心ばかりもおれない。

「ランドセル」という言葉はオランダ語

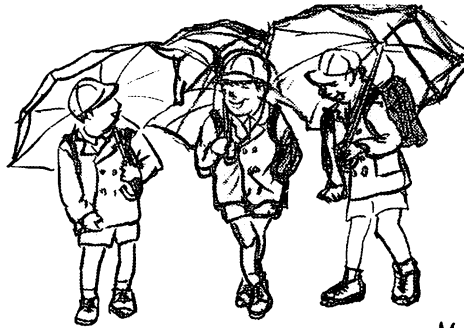
の「ランセル」が変化したもので、今から130年前にヨーロッパの軍隊が背負っていた袋がランドセルの始まりだと言われている。それから10年ぐらいてしてランドセルが日本に入ってきたそうだ。

私が入学した時にランドセルを買ってくれたのは親ではなく叔母だった。実は私は身体的な理由から、就学免除になっていた。ところがふとしたきっかけで1年おくれたものの市内の小学校に入学することができたのである。このことを知った叔母がすごく喜んでくれ、お祝いにランドセルをプレゼントしてく

れたのだ。叔母からのプレゼントだということで、私は子供なりにランドセルを大切にしていたことを、新入生のランドセルを見て思い出した。

晴れのち晴れ 91

ランドセル
稲垣 恵雄



M₁

サロンと私

（サロン・あべの）の金銭管理と写真撮影を担当している、うえひら☆ゆきおです。（サロン・あべの）には、発足間もない頃から関わってきました。代表をさせてもらっていた時期もあります。そんな自分から今のサロンを見ると、少し物足りなさを感じてしまいます。それが悪いことだとは断言できませんが、ぼく自身の思いを綴ってみます。

足りないもの

第1に、参加者が足りません。人数が多ければ良いというものでもありませんが、もう少し参加者が増えてほしいと思います。とくに、障害者自身の参加が増えてほしいので

す。そのためには、テーマの選び方やゲストの人選段階から考えていかなければなりません。それと共に、会場の問題があります。（サロン・あべの）ですから、阿倍野区を離れることはできませんが、アクセス面でも設備の面でも、今の場所がベストとは思えないのです。第2に、運営委員が足りません。政治家のスローガンではありませんが、サロンにも改革が必要だと思えます。新しい運営メンバーを入れることで、斬新なアイデアが飛び出すことに期待したいのです。改革は大げさとしても、次世代の育成だけはしておくべきです。そうしなければ、会そのものの存続すら危ぶまれるときが、必ず訪れると思います。さらに、会計担当者の立場から言うならば、資金も足りません。

満足しない性格

魚のマグロは、泳ぐのをやめると死んでしまうそうです。ぼくもそれに似たところがあります。常に変化を求める傾向があるのです。とても疲れる生き方ですから他人に勧めることはできませんが、変化を望むことは悪くな

いはずです。そんなぼくの価値観から見ても、今のサロンは満足しすぎではないでしょうか。今のサロンは、非常に安定しています。でも、このままでは、さらなる成長は見込めません。場合によっては、現状を維持することすら難しくなるかもしれません。多少のリスクはあっても、何かにチャレンジをしながら次世代の人材を育てる。簡単なことではありませんが、そういう理想に少しでも近づけるよう運営することが大切だと思います。

（うえひら☆ゆきお）

「サロンと私」は今回で終わります。

「クロッカスが咲きました」
という書きだしでふいに
手紙を書きたくなりぬ

—— 儀 万智
(サラダ記念日)

サロンの一筆箋

一冊100枚綴り150円

平成17年度＜サロン・あべの＞の活動と毎月の出会い

平成17年度活動テーマ ＊サロンよいとこ、こんなとこ＊

	会 場	毎 月 の 出 会 い	お 客 さ ま
平成17年 4月16日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	出会いました・ふれあいました・ 助けられました	窪田新一さん (サロン・淀川 代表)
5月21日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	てくてく・ぱくぱくの10周年	土井俊次さん(てくてく・すみよ し 代表)と 山本篤江さん
6月18日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	出会いの輪、笑いの和、そしてもう ひとつの「わ」を求めて	中本勝也さん (サロン・にしよど 代表)
7月16日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	サロンにし、あれこれ物語	宮脇淳さん (サロンにし スタッフ)
8月 8日・日	市立工芸高校校庭	第32回あべのカーニバル・なんでも市通りに「さろん亭」開店	
9月17日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	共に学び、共に語り、共に遊んでみ ませんか	鈴木昭二さん (ウイズ東淀川 代表)
10月15日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	思い出作り	西浦清輝さん (サロン『アイ』代表)
11月19日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	みんなちがって、みんないい	池田美仁さん (サロンつるみ 代表)
12月 3日・土	イタリア料理	食事会—もういくつねると・・・来年もいい年を祈って—	
平成18年 1月21日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	ボランティア活動はコミュニケーションが命 です	脇坂博史さん(市社協・大阪市ボランティ ア情報センター)
2月18日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	都会における癒し～音と香りのハ ーモニ～	竹岡太一さん(サロン北 代表)
3月18日・土	育徳コミュニティー センター2階研修室	＜サロン・あべの＞20周年記念 久しぶりに「お・か・し」を囲んで	本紙エッセイでおなじみの 岡知史さん

●その他の活動

口御堂筋チャリティバザー(いきいき市民推進室)で、サロングッズ販売(H17年10月25日～26日
大阪ガスビル・御堂筋にて)

口「地域の福祉環境を考える会」 毎月例会に参加

口＜サロン・あべの＞紙 毎月第3土曜日発行

口＜サロン・あべの＞紙 毎月音訳テープ作成(協力＝音訳ボランティア・グループ「糸でんわ」)

口さろん文庫開設＝毎週金曜日午後1-4時(阿倍野区在宅サービスセンター・ビューロー室)

口さろん文庫本、音訳テープ作成＝音訳ボランティア・グループ「糸でんわ」

口広報活動＝アベノ・タウン紙、ボランティア情報誌「コンボ」、他区サロン紙

口サロングッズ制作と販売＝＜サロン・あべの＞10周年記念誌「はあとが、はろー!」、一筆箋、
絵はがき「童謡♪絵はがき」「花だより」「新・わがまち阿倍野」、
阿倍野いろはがるたなど

赤松 昭

「谷間」に

ごだわり続けて

23

―若者と家族の会の歩み(その4)―

こうした講演会開催を経て、私たちの活動は少しずつですが会の中側から外側へと動き始めました。

早い時期では、1997年に兵庫県在住のメンバーが知事と面会。県における遷延性意識障害者支援の要請を行い、県内における実態調査が実現する運びとなりました。こうした動きを皮切りに、各地の会員がそれまでサービズ利用手続きのためにしか訪れなかった役所窓口へ、要望事項を引っさげて訪れるようになりました。

こうして地域単位で始まった行政交渉が、その対象を国にする場面がやってきました。1999年7月のことです。この時、運輸省管轄の自賠責保険の一部を民間委託しようとする動きが勃発しました。自賠責は御存知の通り、交通事故の補償を行う強制保険ですが、こうした保険給付以外に積み立てた保険料を運用して行う被害者への救済制度があります。これは「再保険制度」といって、例えば重度障害者への介護料の支給、意識障害の治療を行う専門の医療機関の設置などを行うものです。ところが、民間の保険会社がこの運用資金に目をつけ、その民間委託を主張したのでした。政府も行革の名のもと、それに応ずる姿勢を見せていました。しかし、そうなればその運用益で行われている被害者救済制度が後退するおそれがあります。そこで私たちは全国の交通事故被害者関係団体と相談して、自賠責保険改悪阻止を訴える署名活動を行うことにしました。

初めての署名活動。場所は梅田の阪神百貨店の前にしました。本当は大阪駅につながる歩道橋上でやっていたのですが、「心臓病の〇〇ちゃんを救う会」が署名活動をしてい

たので諦めました(脳死者からの移植を推進する活動に複雑な思いを私たちは抱いていたからです)。参加してくれた会員は総勢30名。それまで署名活動などしたことがない方がほとんどでしたが、見よう見まねで懸命の呼びかけをします。おかげでこの1日だけで、約650人の方の署名が集まったのです。この署名も併せ、他団体が行った活動で得られた合計2万3千名あまりの署名を運輸省に提出。結果は、再保険制度は廃止となったものの、それに代わる措置を講じることで決着しました。(行政交渉の話はまだ続く)

ありがとうございます。

カンバ、切手・お菓子・コーヒー・ジュース。お花の寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございます。

カスターネット、伊東裕子、神谷君江、小西京子、坂井正子、高浜吉増、田中美智子、田村昌子、寺岡富子、富田万里子、東百合子、原田博子、平岡太、藤井さゆり、宮崎喜代子、山本敏子、吉岡克彦、その他の方々。(敬称略)

美智子のこんな話

岸田美智子

生活できへん！ 自立支援法

この4月から障害者自立支援法が施行され、負担金が発生します。お住まいの区役所から、この短い間に、本主にいろいろな書類が送られてきたと思います。情報を取り入れるのに、障害のある私たちにとって、このスピードは、本主についていけない、と実感しています。特に、精神障害者の方や知的障害者の方には、どれだけ情報が届いているのか、大変心配になります。例えば、私の場合、「利用者負担上限月額管理表」が届いたのが3月27日ごろです。費用負担の発生する4月1日には一週間もない状態でした。介護保険では使われている、上限管理表だそうですが、私たち障害者は、見るのが初めてです。私も、まず全部読んでみましたが、何をどう

が、この内容を私の生活に沿って書き込んでいこうと思うとそれがかなり複雑で分かりづらいのです。私たち障害者が利用してきた支援費制度では、いつ外出するのか、いつご飯を作るのかなどなど、生活の組み立ては、生活の主人公である、障害者本人が決めてきました。でも、この管理表では、何時から何時までヘルパーは外出介護で、何時から何時まで入ったヘルパーは日常生活支援などと、区別せねばならず、実際の生活とは、食い違ってしまうのです。ケアプラン通りの生活なんてありえないのです。例えば、外出に関してだけでも、ちよつと隣の家までとか、急に体の調子が悪くなつて、お医者さんへ行かねばならないとか、友達と一緒に外出するとかなどなど、どこまでが外出ととらえるのかと

書いたら良いのか分からず、私が契約しているヘルパー派遣事業所に相談に行きました。これが、3月29日でした。一応、この日の説明で、何を書いたら良いのか分かりました。書いたら良いのか分からず、私が契約しているヘルパー派遣事業所に相談に行きました。これが、3月29日でした。一応、この日の説明で、何を書いたら良いのか分かりました。

か、急な外出はどうするのか、という問題があります。人間の生活なんて1日1日違いますし、予定通りに行かないものが、生活だと思いません。それが、生活のよさでもあり、人間らしさだと思えます。このようなことも、障害者自立支援法の影響でつぶされていくとしていくのです。この問題は、老人対象でやってきた介護保険と、障害者対象でやってきた支援費制度の大きな違いではないでしょうか？ それならば、どちらが人間的な生活なのか、答えは出ていると思います。

今後、老人の人たちも、もつともつと家族に頼らなくても、寝たきりになつても、尊厳ある生活を地域でやっていけるように、求めていくべきだと思います。

○連絡先

社会福祉法人あいえる協会

自立生活センター・MY・D.O.（まいどく）

〒558-0002

大阪市住吉区長居西1-9-12キミハウス1階

TEL 06-66609-3133

FAX 06-66609-3210

Eメール cll-mydo@jasmine.ocn.ne.jp



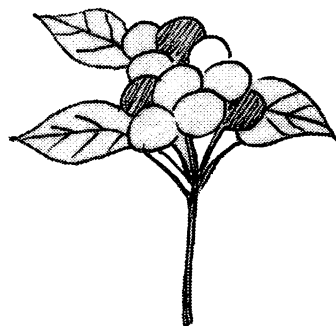
コミュニティーセンター2階)で「ユニバーサルデザイン」についてお話をさせていただいてから、1年が経ちました。そしてその5月からこの欄を掲載させていただくようになり、いろいろな作品をご紹介しますが、気に入ったもの、作ってみたいと思われたものが、それぞれおありのようでした。

力を持った、かわいい、きれいな色の糸が活躍して、その日から効果があります。

5月の午後のひととき、おしゃべりしながら、お茶しながら、糸で遊びませんか。材料はこちらでご用意します。

そしてまた、今までの作品で、ご質問などございましたら、よろしくお願ひします。

中に、いっしょに何か作ってみたいというお声があり、5月の「出会い」の日を当てていただけることになりました。



5月20日(土)。消臭の糸でポンポンを作り、花束に仕上げます(右図)。消臭という特殊な

昨年3月19日(土)<サロン・あべの>3月の出会い(育徳コ



ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま

Yuimaru

一問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織一
〒567-0048茨木市北春日丘4-9-24井上9101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail:tesagurikobo@hcn.zaqa.ne.jp

お知らせ

〔サロン・あべの〕5月の出会い
 容…糸遊び・消臭ポンポン玉作り
 お客さま…池内沙織さん(手沙織工房・主宰)
 日 時…5月20日(土) 午後1時〜4時
 場 所…育徳コミュニティーセンター2階
 06・6621・1901

最寄り駅 地下鉄御堂筋線「西田辺」
 費…なし ハサミだけお持ちください
 問い合わせ先…
 06・6691・1028 (富田慶子)



SALOON

随組ニュース

5月はどこのサロンの、どのテーマがお気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」5月の出会い

日時：5月21日(日) 午語1時30分～4時
内容：笑顔で輝く“やさしい町”
-これからの街を作るために頑張っています-

ゲスト：笑福亭仁勇氏(淀川在住、噺家仁勇が淀川区を愛し続けてウン十年)

会費：なし

場所：淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」
[大阪市淀川区三国本町2-14-3]

問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」5月の出会い

日時：5月13日(土) 午後2時～4時
内容：知的障害について学ぼう!パートI
会費：なし

場所：西区在宅サービスセンター6階
ボランティア・ビューロー室
大阪市西区新町4-5-14 (西区役所隣)
地下鉄=西長堀駅4-A号 出口からすぐ
市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ
☎06-6539-8075

問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」5月の出会い

日時：5月27日(土) 午後

内容：未定

参加費：未定

問い合わせ先：中本勝也

☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」5月の出会い

日時：5月14日(日) 午後1時30分～4時
内容：今月は2本立て

- ① 出産時に負った障害児を養育している陽気な母の20年に渡る介護話
- ② 視覚障害ガイドヘルパー・ミニ講習会
一手引きの仕方のポイントを分かりやすく手ほどきします-

ゲスト：①佐々木由佳里氏 ②鈴木昭二氏

会費：なし

場所：東淀川区民会館4階・会議室

問い合わせ先：鈴木昭二

☎・FAX 06-6340-3082

■「サロン北」5月の出会い

日時：5月20日(土) 午後1時～

内容：パソコンが語る

奇跡が! 脳死の学さんを蘇らせた家族の愛・・・夢は...学校の先生

出演：赤い車いすの松村 学さん

場所：障害者福祉作業所センター「たけのこ」
[大阪市北区本庄東2-6-11 宝来堂ビル1階、本庄川崎公園北側、緑色のテントのあるビル]

定員：20名程度、お早めにお越しください。

会費：なし

問い合わせ先：サロン北・事務局、担当=山根

☎06-6372-8074

FAX 06-6372-8867

「サロンいたみ」5月はお休みです



サロンの 絵はがき

5枚1組 180円

広い 大きな 海・・・

お船が

遠く浮かんでいます

かすむ水平線の

まだ まだ

ずうっと向こう

はるか もっと先に

童謡のくにが・・・

探しに出かけませんか

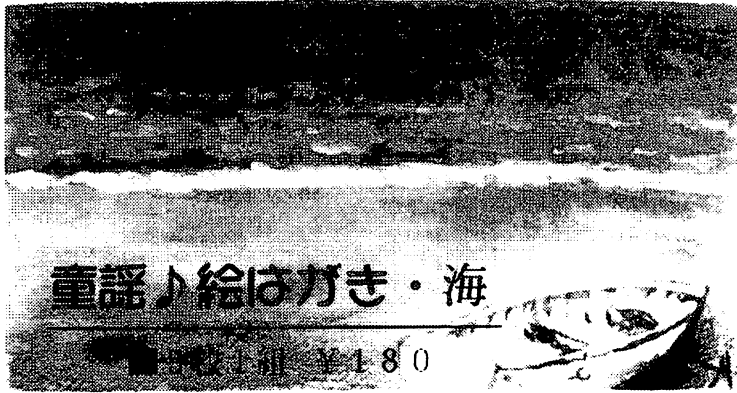
・海

・椰子の実

・われは海の子

・浜辺の歌

・うみ



え：石田美禰子

寄りみち



237号の「邦子、・・・ん歳の手習いNo.26」の中で、「見える人生と見えない人生を同時に体験できないのだから、比べようもないが、見えないでいても不便でない社会になることの方が幸せかもしれないし、見えないことをネガティブにとらえて、今以上に見えるようになる治療に一生を捧げるよりも見えない人生を楽しむ方が幸せであるかもしれない」という青木さんの前向きな人生に、何度も何度もうなずきました。と、お便りをいただきました。(石)

<サロン・あべの>VOL. 238 発行：平成18(2006)年4月15日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます

一九九九年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)